

● 仏陀の眞実の教えを説く

目次

I 雑阿含經 一切事經 在家成仏を説くお経

出家仏教と在家仏教	〇一〇	修行の害となるそろばん勘定	〇三〇
如是我聞と「阿含經」	〇一三	修行者を進歩させる聞・持・觀	〇三三
優婆塞とはなにか	〇一六	自利の八法	〇三八
修行の根本となる信	〇二〇	自利・利他の十六法	〇四三
正しく信を育てる戒	〇二四	正信を広める	〇四九
徳のもととなる布施の行	〇二七	出家を超える優婆塞	〇五三

II 雑阿含經 応説經 唯一の成仏法、七科三十七道品

五蘊の眞想法	〇六四	三証そろつた阿含宗	〇六三
成仏できない僧侶たち	〇六六	因縁の鎖を断ち切る成仏法	〇七九
成仏法と伏鷄	〇七一	世界を救う唯一の仏法	〇八二

III 雑阿含經 自輕經 来世は日々の修行によって決定する

マハーナーマの恐れ	〇九〇	十界論	〇九六
来世を決定する命終の一念	〇九三	現世での六道輪廻	一〇〇

IV 雑阿含經 申恕林經 如来は成仏に役立つ道のみを説く

六道を抜け出た四聖	一〇一	善処に導く修行の功德	一一一
マハーナーマの不安	一〇五	恒常に仏に向かわせる日々の修行	一一四
お釈迦さまの不思議な問い	一一三	おまえ、苦しいだろう	一二八
成仏に役立つ教え	一二五	仏教と仏法	一四一
四諦の法門	一三〇	道諦とは優婆塞の八法・十六法	一四三
四苦八苦	一三五		

V 雑阿含經 出家經 煩惱と業からの解脱

婆蹉種出家の問い	一五二	梵行の有無による果報の違い	一七七
仏道の目的	一五五	婆蹉種出家の讃嘆	一八四
凡夫の煩惱・五下分結	一六一	阿羅漢とは仏陀のこと	一八七
聖者の煩惱・五上分結	一六六	阿羅漢を小乗としたからくり	一九二
出家の梵行、在家の梵行	一六九	三結さえ断てない大乘仏教	一九四
煩惱の解脱と業の解脱	一七六		

VI 雑阿含經 仙尼經 仏教の業報輪廻の思想

仏教と業報思想	二〇六	我が世誰ぞ常ならむ	二三五
希有講堂での議論	二〇九	人間とは五蘊仮合の存在	二四〇
六師外道	二二三	成仏できない弟子と、成仏できる弟子	二四三
三種類の宗教家	二二五	法眼淨を得る	二四八
縁によつて生じる	二三〇	慢の相續	二五一
聰明なものだけが理解できる真理	二三二		

VII 雑阿含經 無知經 お釈迦さまの死生觀・輪廻転生觀

死後の存在	二六二	五蘊觀法	二八〇
長夜に輪廻する	二六四	實在するものはなにもない	二八三
百穀草木皆悉く枯乾するとも輪廻は止まず	二六九	「因縁空」だから人は救われる	二八四
仏教の宇宙觀	二七二	善人になるのも悪人になるのも縁しだい	二八六
狗子とは凡夫のこと	二七六		

VIII 増一阿含經 善聚品 輪廻転生を断つ五根法

因縁に依つて課せられる成仏法	二九四	十結と四沙門果	三〇二
渴愛とは根元的な執着	二九九	修行の第一歩は我見をなくすこと	三〇五

疑惑と戒取を断てない大乘仏教	三〇九	四沙門果と成仏の実相	三二三
五つの徳目からなる成仏法	三二二	成仏とは輪廻転生がつかえること	三二七
成仏法を構成する梵行と特殊な修行	三二八	成仏法を広げる梵行	三二八
梵行とは滅罪生善の法	三二九		

IX 雑阿含經 分別經 梵行と特殊な修行からなる成仏法

修行に必須のゆるがない信心	三三六	四禪天と四禪法	三三五
梵行の四つの心得	三四三	四諦の法門の体得から得る智慧	三五六
空を悟る四念処法(念根I)	三四六	梵行と修行法の相乗効果	三五九
体力と精神力の強化法(念根II)	三五〇		

X 雑阿含經 向經 空しく終わらない五根法の功德

必ず得られる四沙門果	三六八
空無果ならず	三七〇
お釈迦さまの叱咤激励	三七二